

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 5月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200096
法人名	有限会社 アズ
事業所名	グループホーム あんず
所在地	群馬県高崎市新町3148番地 (電話) 0274-42-7448

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年4月23日

【情報提供票より】(20年 4月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30日 36,000 円	その他の経費(月額)	おむつ処理代 時価	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円

(4) 利用者の概要(4月 18日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	71歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大久保医院・野中外科・関口歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者の個性やその人らしさを大切に、住み慣れたこの町で、地域で過ごせることを理念にあげ、開設1年を迎えたホームである。入居者一人ひとりの力量にあわせ、ゆったりとした日々の介護を行い、個別ケアを大切に取り組んでいる。日常的に地域とのつながりを持ち、近隣の人達がホームに立ち寄りたり、餅つき大会や行事にも参加するなど入居者と一緒に楽しんでいる。また、地域の花火大会や運動会、町内の行事に積極的に参加し、地域に根ざした生活の場を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員が、評価の意義を理解されている。代表、管理者、職員で話し合い作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を、2ヶ月に1回開催している。事業所の状況報告、入居者の健康状態、行事予定、ケアのあり方等を報告している。また、玄関の鍵について話し合い、チャイムの設置等出された意見を受けてサービスの向上に活かしている。開設当初の会議では、市の職員から、グループホームについて、認知症高齢者についての話をさせていただき皆で学んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や毎月の支払いに来たときに、家族に意見や要望を聞いたり、健康状態や暮らしぶりを報告している。また、運営推進会議で意見を聞き、出された意見を職場会議で検討し運営に反映させている。家族への報告では、口頭のみ報告とされているため、今後、「便り」をも検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の散歩を通して、地域の人達と気軽に声をかけ合っている。近隣の人がホームに立ち寄りたり、ホームの餅つき大会等の行事にも参加している。町の花火大会、運動会、音楽会、お祭り等行事に積極的に出かけ、地域の人たちとのふれあいを大切にしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然に過ごして頂きたいという願いを込めたホームの名前である「あんず」の由来が、理念になっている。種まで個性の有るあんずのように、入居者の個性やその人らしさを大切に自然に、住み慣れたこの町で地域で過ごせることを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って、入居者一人ひとりの力量にあわせた個別ケアに取り組んでいる。日々の対応が、理念に反映しているかを、カンファレンスやあんず会議で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地元出身であり、広報や地域の案内を回覧してもらうなど、日常的に地域とのつながりを持っている。近隣の方がホームに立ち寄り、餅つき大会等行事にも参加している。また、町の花火大会、運動会、音楽会やふれあいサロンに入居者が参加している。地域の人から認知症の相談を受けることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、評価の意義を理解している。自己評価については、代表、管理者や職員で話し合い作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、消防団長、長寿社会課、支所、家族、近隣住民等の参加による運営推進会議を、2ヶ月に1回開催している。事業所や入居者の状況報告、行事予定、ケアのあり方等を報告している。玄関の鍵について話し合い、チャイムを付ける等、意見を受けてサービス向上に活かしている。また、市の職員から、グループホームについて、認知症高齢者についての話をしていただき皆で学んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所が近いこともあり、日常的に出向いて問題を相談したり、支所からの紹介で入所する方もある等情報交換を密にしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や月1回支払いの為、家族来訪時に口頭で健康状態、暮らしぶり等を報告している。現在、「便り」の発行を検討している。	○	家族の面会の機会も多く、職員による報告がなされているが、決め事がない。口頭報告のみに頼るのではなく、一定の様式設定を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に、家族の意見や要望を聴取している。運営推進会議で意見を出してもらい、それらを運営に反映させている。また、相談、苦情を外部者へ表せるよう外部の苦情窓口についても説明もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、職員の悩みを聞き、離職を防ぐ努力をしている。職員の退職については、入居者には特別に伝えることはしていない。他の職員がさりげなくカバーをし、入居者にはダメージを与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム開設時に、職員採用と共に、他のグループホームでの研修を受けている。外部研修には、交替で参加できるように計画している。外部から講師を招き、マンツーマンで実践対応の指導を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム2カ所に、1ヶ月程研修見学を行い、交流を通じてサービスの向上に取り組んでいる。外部研修参加後は、報告書にまとめて共有している。連絡協議会には、これから入会する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族と共に来所して頂き、ホームで過ごす時間を作り、不安を抱かないようにしている。入居後は、当面の間、専用の担当者を置き、散歩や話しかけをしながら馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者に地元の昔のことや、おやつのおやつの白玉の作りかたのこつや干し柿作り等を教えていただきながら、学んだり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の希望や既往歴・家族歴・思考などを参考にしている。また、入居者の日常の会話の中から、また、入居者間の会話の中からさりげなく聞き取ったりしている。把握が困難な場合は、本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、また、家族には面会時に希望や意見を聞き、職員にはケアについての考えやアイデアを個々に聞き、ミニカンファレンス等の話し合いの場で確認している。本人、家族、職員、関係者の意見を合わせて、入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状の変化に即して、本人、家族、関係者と話し合い、見直しをしている。見直し時期は決めているが、見直し理由等の記載がされていないものがある。	○	期間に応じて見直しを行っているが、職員が閲覧する介護計画書に見直し理由等が明文化されていないので、統一した介護ができるようマニュアル等による記載をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望や本人の状況により、受診の付き添いや送迎を職員が行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、家族の希望するかかりつけ医になっている。ホームの協力医から月2回の定期往診があり、情報交換を密にしながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、希望があればホームで対応していく方針を職員間で共有しており、家族や医師とも話し合っている。医療処置が必要で入院した場合は、面会に行き相談を受けたりなど支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には採用時、プライバシーや個人情報の取り扱いについて契約書を交わし指導している。写真を家族に渡す場合も他の入居者が写っているものは渡さないようにするなど、日常的な対応や言葉かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の決まりではなく、本人がしたいように、一人ひとりのペースで自由に過ごせるように支援している。テレビを観ている方、歌を歌っている方、ベランダに出て日なたぼっこをする方等思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望を聴いて献立を考え、一緒に買い物に出かけたり、入居者のペースや希望に任せて準備やテーブル拭き、下膳などの片付けをして頂いている。食事は一緒にし、職員はさりげなく支援している。また、誕生日には、ホームでバイキング形式で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回と決めているが、入居者の希望があればいつでも対応できるよう支援している。入浴を嫌がる入居者には、時間をおいて働きかけるなど一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。介護困難な方には、職員2人で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の皮むき、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの役割ごとを、その人のペースや希望に任せて担ってもらっている。また、干し柿作りやなすの苗を入居者一人ひとりに準備し育てて食すことを行い、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行っており、近隣の事業所の事務所でお茶を飲んで過ごすなど、戸外へ出る支援をしている。また、月1回は外食に出かけたり、花見や音楽会、町内のお祭りにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。全職員が、鍵をかけることへの弊害は理解している。以前に入居者が外に出てしまったことがあり、鍵について運営推進会議でも検討し、家族の意見を頂きながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、年2回行っている。消防署の指導の下、入居者と一緒に、119番通報から避難誘導まで行っている。ベランダの両側にスロープがあり、災害時に避難できるようにしており、避難後の集合場所などの取り決めがある。地域の人々への協力依頼はしているが、応援態勢まで整えられていない。	○	運営推進会議で、口頭での協力依頼をしているが、さらに地域の応援態勢を組織化できるようにして頂きたい。また、非常食の備蓄も検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	開設当初は、栄養士に献立をつくってもらっていたが、現在は入居者と一緒に家庭食を基本とした献立を作成している。塩分制限や食事の量に制限がある方など状態に応じた支援をしている。食事、水分摂取量のチェックを行い記載をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く居間に続くベランダのガラス窓から陽ざしが入り明るい。台所と居間兼食堂が続いており料理をする職員が見え料理の臭いを感じることができる。ベランダは広く目の前には畑やみどりが見えて居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、窓が広く明るく床暖房になっている。利用者の状況や希望により畳で布団であったり、ベッドの置き方を変えるなどで様々にしている。本人の好みものや椅子、テーブル、箆笥など使い慣れたものを活かして居心地良く過ごせるように工夫している。		